

長岡京市
屋内の遊び場整備に関する提言

令和8年9月18日

長岡京市議会議員政策研究会
こどもの遊び場のあり方研究分科会

はじめに

近年、気候変動により、子どもたちが屋外で安心して遊ぶことが難しい日が増えている。子どもの健やかな成長にとって、身体を動かし、友人や保護者等と関わりながら遊ぶことは欠かすことのできない経験であり、天候や気温に左右されず利用できる屋内の遊び場へのニーズは高まっている。

長岡京市では、北開田児童館や長岡京市立総合交流センター（以下「バンビオ」という。）1階児童室など、子どもたちが屋内で遊べる環境づくりにこれまでも取り組んできた。しかし、雨天時や猛暑時に子どもが十分に身体を動かして遊べる場、小学生を含めた幅広い年齢層が利用しやすい屋内の遊び場については十分とは言えず、市民から環境整備を求める声が多く寄せられていた。

これを受け、長岡京市はバンビオ内において屋内の遊び場を整備することを検討している。バンビオは駅前に位置し、中央生涯学習センター、バンビオ広場公園、市民活動サポートセンター、男女共同参画センター、生涯学習団体交流室など多様な公共的機能と一体となっていることから、単なる遊び場にとどまらず、遊び、学び、交流、子育て支援をつなぐ拠点となる可能性を有している。

本分科会では、こうした状況を踏まえ、議員間での意見交換、ワークショップ、他自治体の先進事例等を参考にしながら、長岡京市にふさわしい屋内の遊び場のあり方について検討を行い、整備に当たって重視すべき基本的な方向性を整理した。

屋内の遊び場の整備に当たっては、本市における既存施設との役割分担を明確にしつつ、長岡京市らしさを備えた魅力ある施設とすること、限られた面積でも子どもが身体を動かし挑戦できる空間とすること、安全性や快適性を確保すること、さらにバンビオ内外の機能と連携し、幅広い年齢層の子どもや保護者にとって利用しやすい場とすることが求められる。

以上の観点から、本分科会として、長岡京市が屋内の遊び場整備を進めるに当たり、特に重視すべき事項を以下のとおり提言する。

なお、本提言は、施設の具体的な設計や運営方法を定めるものではなく、今後の整備に当たり、長岡京市が重視すべき基本的な方向性を示すものである。

整備に当たっては、市民ニーズや施設条件、財政状況等を総合的に勘案しながら検討を進められたい。

提言

1. 長岡京市らしさを備えたシンボルとなる施設の整備

<提言>

- ・ 長岡京市のシンボルとなるような施設にするため、長岡京市らしさを備えたテーマ性や空間づくりを重視すること。
- ・ 子どもたちが自ずと愛着を持ち、「また行きたい」と感じられる魅力ある施設にすること。

屋内の遊び場は、単なるキッズスペースにとどまらず、長岡京市の特色を活かした象徴的な施設とすることが求められます。分科会におけるワークショップでは、「ランドマークとなる施設」「長岡京市らしさ」「オンリーワン」「ここでしか体験できないもの」といった意見が挙げられ、近隣自治体における同様の施設を参考にしつつも、長岡京市独自のテーマ性や空間づくりの重要性が指摘されました。

子どもたちが自ずと愛着を持ち、「また行きたい」と感じられる、長岡京市の新たな魅力となる施設にすることが求められます。

2. 既存施設との役割分担を踏まえたバンビオならではの遊び場の整備

<提言>

- ・ 雨天や猛暑時でも子どもが身体を動かせる「全天候型の遊び場」としての機能を備えること。
- ・ 駅前立地や公共施設としての特長を生かし、利用者が気軽に立ち寄れる拠点として整備すること。

バンビオに整備する屋内の遊び場は、雨天や猛暑時にも子どもが身体を動かし、遊び、交流できる「全天候型の遊び場」としての機能を備えることが必要です。特に、駅前に立地し、多様な公共的機能と一体となっているバンビオの特長を生かすことで、子どもや保護者が日常的に気軽に立ち寄れる拠点となることが求められます。

また、遊び場に付随する機能として、子育て支援センターが担っている親子支援・相談機能との役割分担も整理しつつ、バンビオ内外の公共的機能と連携しながら、遊び、学び、交流、子育て支援がゆるやかにつながる場として整備することが望まれます。

3. 高さや立体性を活かした挑戦できる遊び場の整備

<提言>

- ・限られた面積でも遊びの幅を確保するため、高さや立体性を活かし、子どもが挑戦しながら身体を動かせることを重視すること。
- ・遊びの多様性やチャレンジ性と、安全性との両立が図れる整備を行うこと。

バンビオ内の限られたスペースを最大限に活用し、遊びの広がりを十分に確保するため、平面的な配置だけではなく、高さや立体性を活かした遊び場の整備が必要です。ワークショップでは、「シンボルとなる遊具（※1）」や「高さや大きさのある遊具（※1）」などが高く評価されており、子どもたちが挑戦しながら身体を動かせる要素を取り入れることが求められます。整備に当たっては、遊びの多様性やチャレンジ性を確保しつつ、安全性との両立を重視する必要があります。

（※1 例：アスレチック、高さのあるすべり台など）

4. 年齢や遊び方に応じた安全な利用環境の整備

<提言>

- ・異なる年齢層の子どもたちが安全に共存できるよう、年齢や遊び方に応じたゾーニングを工夫すること。
- ・動きの大きさや利用状況に応じ、空間や時間帯による利用区分を検討すること。
- ・保護者の見守りや車いす・ベビーカー利用者への配慮を含め、安心して利用できる空間づくりを行うこと。

遊び場では、年齢層や身体能力の異なる子どもたちが安全に共存できる空間づくりが不可欠です。全体の面積は限られていますが、動的な遊びと静的な遊び、未就学児と小学生の利用などをゾーニングによって整理すること、また、遊び方や動きの大きさに応じ、空間の使い方や時間帯による利用区分を設けられるよう工夫することが求められます。

さらに、子どもが不用意に施設外へ出ることのない動線、保護者の見守りや車いす・ベビーカー利用者への配慮も含め、安心して利用できる環境整備が必要です。

5. 利用者の快適性を支える設備・環境の充実

<提言>

- ・子ども連れの利用者が快適に過ごせるよう、必要な設備や環境の充実を図ること。
- ・床材や色合いなど、安全で心地よく過ごせる空間整備を行うこと。

安全で快適に利用できる遊び場とするためには、遊具や空間デザインに加え、子ども連れの利用者が快適に過ごせる環境を整えることが重要です。ワークショップでは、「ベビーカー置き場」「水飲み場、手洗い場」などの基本機能が重視されており、これらは施設の使いやすさや安心感を左右する要素です。さらに、おむつ替えや授乳などが可能な環境、衛生面に配慮した設備の必要性も指摘されました。

併せて、床材や色合いにも配慮し、子どもや保護者が安全で心地よく過ごせる空間づくりが求められます。

6. 親子・多世代交流と子育て支援につながる場の創出

<提言>

- ・子どもだけでなく保護者にとっても利用しやすい環境を整えること。
- ・地域とのつながりや多世代交流が生まれる場を目指すこと。
- ・子育て支援センターとの連携や専門職による相談機会の確保など、必要な支援につながる柔軟な仕組みを検討すること。

屋内の遊び場は、子どもだけでなく、保護者が安心して見守り、親子で一緒に過ごせる場であることが重要です。「親子で遊べる」「公園デビューのきっかけになる場」などの意見を踏まえ、保護者にとっても利用しやすい施設であることが求められます。また、地域の高齢者や市民団体との交流（※2）など、多世代交流や地域とのつながりが生まれる場となることも期待されます。

さらに、子育て支援センターとの連携や、専門職による相談機会を設けることで、遊び場の利用をきっかけとして、支援を必要とする家庭が適切な支援につながる柔軟な仕組みについても検討することが求められます。

（※2 例：昔遊び、読み聞かせ、工作、見守り等）

7. 既存施設・ソフト事業との連携による機能の充実

<提言>

- ・屋内の遊び場だけでは満たしきれない年齢層や活動ニーズに対応するため、ソフト事業の推進や既存施設との連携を強化すること。

屋内の遊び場だけでは、すべての年齢層やニーズを満たすことは難しいため、既存施設との連携が重要です。分科会では小学生以上の活動機会の充実を求める意見も挙げられました。小学生以上の子どもたちは、年齢に応じ、活動ニーズが多様化する（※3）ため、バンビオの公共的機能と連携し、学び・創作・交流の場としての機能を補完する仕組みが望まれます。図書館資料の活用や作品展示、ワークショップなど、既存施設やソフト事業と連携した取り組みを推進することが求められます。こうした連携により、バンビオ全体の複合的な魅力向上につながることも期待されます。

（※3 例：ボードゲーム、eスポーツ、音楽、ダンス、工作、学習、友人との交流など）